

TMRプライマー



特長

TMRプライマーは**既存塗膜がある時に使用する**窯業屋根用の水性プライマーです。

瓦用下塗り塗料として、既存塗膜の表面劣化によるひび割れなどを充填し、上塗り塗料の吸い込みを防ぐ下地調整機能を併せ持つプライマーで、瓦基材を保護します。



1. 多くの既存塗膜に適応

付着性に優れた多官能基を持つ特殊樹脂採用。エポキシ樹脂に引けを取らない付着力で多くの既存塗膜に適応します。

2. 優れた耐水性と上塗り適応力

自己反応硬化型樹脂により強靱な塗膜を形成。屋根塗料として必須性能である耐水性に優れ、耐溶剤性にも秀でることから水性・溶剤の多くの上塗り塗料に使用できます。

3. 下地調整機能で良好な仕上り性

一定の膜厚を確保することができ、劣化で生じた凹凸を滑らかな面に修復します。上塗りの仕上り性向上と共に、雨水をスムーズに排水します。

4. 環境配慮製品

1液水性塗料で環境に配慮した塗料のため、低臭で使い勝手が良く、作業性に優れた塗料です。

用途

- 厚型スレート瓦 ● スレート瓦、● 波形スレート屋根
- 薄形化粧スレート瓦（カラーベスト、フルベストなど）

上記瓦の塗り替え用プライマー（既存塗膜有り）

適用上塗り

- 屋根用弱溶剤形パラサーモシリーズ
- スーパーパラサーモシリコン
- リリーフNADシリーズ
- 水性パラサーモNEO ● 水性ルーフシリコンNEO
- 水性ルーフセラ遮熱 ● 水性ルーフセラ
- スレコートルーフ ● ニューリリーフトップ

入目・荷姿

15kg 角缶

色



▲ ブラック



▲ グレー



標準塗装仕様

| 工程 | 材料の割合 | 施工方法 | 使用量 (kg/m ²) | 1缶当たりの施工可能面積 | 施工間隔 (23℃) |
|------|---|----------------------|--------------------------|--------------|------------------|
| 下地調整 | <ul style="list-style-type: none"> ・ フクレ、割れ、浮きなどの劣化塗膜はケレン工具を用いて除去してください。 ・ 被塗物表面の塵、ホコリ、コケ、藻類や既存塗膜のチョーキング、浮き、ハガレなどは高圧水洗浄（10MPa～15MPa）で完全に除去してください。高圧水洗浄ができない場合はホースで水を流しながらワイヤーブラシなどを用いて塵、ホコリ、藻、コケ、かび類を完全に除去してください。 ・ 油分が付着している場合は溶剤拭きを行ってください。 ・ 水洗い後は1日以上乾燥させてください。 ・ 発錆部は、ワイヤーブラシやサンドペーパー、電動工具などで入念にサビを除去し、脱脂後、時間をあけずに下地に適用した金属用プライマーを施工してください。 | | | | |
| 下塗り | TMRプライマー・・・・・・・・・・ 15kg 水・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 0～0.75kg | 刷毛 ローラー スプレー※1 | 0.3～0.5※2 | 30～50㎡/缶 | 16時間以上 72時間以内 |
| 上塗り | ● 適応上塗りよりお選びください。 | | | | |

※1:エアレス施工の場合の希釈率は3～5%を目安としてください。
 ※2:使用量が規定値に満たない場合は塗装回数を増やして規定値を塗装してください。また、「TMRプライマー」を塗り重ねる際の施工間隔は3時間以上(23℃)以上です。使用量が少なく塗膜が薄い場合、剥離や溶剤形上塗り塗料によるリフティング（塗膜の手入れ）の原因となります。
 注) 既存塗膜無く、下地が露出している場合は、「NT水性カチオンプライマー」を下地露出部に塗装した後、「TMRプライマー」をご使用ください。

■ガンチップおよび吐出量の目安

| | |
|-------------------|----------------------------|
| 最大吐出 | 4.5～6.0 ℓ / min |
| フリーパターンチップ（ノズル口径） | 0.017～0.036インチ/0.43～0.91mm |

TMRプライマーの施工上の注意事項

■施工前確認

- 漏水がある場合や予測される場合は、下地調整前に確認し、適切な対策を行ってください。
- 「TMRプライマー」は、無塗装スレートなどには直接施工はできません。既存塗膜がある時に使用する下塗り塗料です。また、金属への直接施工は避けてください。
- 改修工事の場合、既存塗膜の種類や劣化状態を確認し、健全な状態でしっかりと付着していることをテープテストにて確認してください。
- 既存塗膜の種類が不明な場合は試験施工を行い、確認したうえで仕様を決定してください。塗装仕様については、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- ウレタンやシリコン樹脂塗料など、上塗りの施工後間もない場合の下塗りとしては使用できません。最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 下地にシリコン樹脂塗料やフッ素樹脂塗料、無機塗料、アルミ使用塗料、光触媒塗料などが施工されている場合、付着性などの点より注意が必要です。最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 本製品はいぶし瓦、粘土瓦（素焼き瓦、いぶし瓦、釉薬瓦など）塩ビ銅板、乾式コンクリートへの施工はできません。

■下地調整について

- 高圧水洗浄やスプレー施工では、周辺の状況をよく確認し十分に養生を行ってください。
- 標準塗装仕様の中の下地調整を必ず実施してください。
- 洗浄後、瓦の破損やスレ、役物の釘浮きなどの確認を行い、瓦の取り換えや補修が必要な場合は適切に処理してください。

■施工上の注意事項

- 本製品は標準塗装仕様に従って施工してください。標準塗装仕様はあくまで「標準」的な仕様であり、下地の状態、形状、施工条件、気象条件などにより使用量や施工間隔などに多少幅を生じることがあります。
- 施工当日から施工後翌日までに降雨、降雪が予想される場合や気温5℃以下、湿度80%以上の施工は避けてください。塗膜が未乾燥状態で降雨や夜露などにあたると、フクレ、割れ、ハガレ、艶引けや白化などの原因につながります。特に冬季は乾燥に時間がかかりますので、乾燥までの時間を考慮して作業を終了してください。気温が5℃以上でも、気温が低い場合は塗膜の乾燥に時間がかかりますので施工間隔が変わります。
- 山間部、あるいは夜露の早く降りる地域では、早めに施工を終了し、十分に乾燥時間を確保してください。光沢低下、フクレ、割れ、ハガレの原因になります。
- 既存塗膜が無くスレートなどの下地が出ている場合は、適切なプライマーを施工してください。
- 塗料は必ず塗装仕様の規定割合比で割合し、電動攪拌機などで十分に攪拌してから施工してください。
- 本製品以外の他の塗料との混合は絶対に行わないでください。また、アルコールや溶剤などの混入は絶対に避けてください。
- 塗料を使用する前や小分けする場合には、塗料を十分に攪拌して均一な状態にしてからご使用ください。
- 塗料の希釈率は標準塗装仕様の範囲内で試験施工などにより決定し、同一条件で施工してください。希釈率は施工条件により、変化しますのでご了承ください。
- 塗装仕様の使用量が塗られていない場合、本来の塗膜性能が発現しないことがありますので規定量を守って施工してください。使用量以下の塗膜は剥離する場合がありますので0.3kg/㎡以上の使用量を守ってください。
- 「TMRプライマー」のローラー施工の場合は0.15～0.20kg/㎡を2～3回塗装してください。また、その際「TMRプライマー」と「TMRプライマー」の施工間隔は3時間以上(23℃)としてください。
- 塗料の希釈率は標準塗装仕様の範囲内で試験施工などにより決定し、同一条件で施工してください。希釈率は色や施工条件により、変化しますのでご了承ください。
- 各工程において、施工間隔（塗り重ね時間）を守ってください。施工間隔は、気象条件などにより変わります。塗膜の硬化が不十分な状態で上塗りを施工するとフクレやリフティング（塗膜の手入れ）が発生します。
- 「TMRプライマー」の冬季施工などで、気温が15℃を下回る環境では、下塗りから上塗りの施工までの施工間隔は、24時間以上必要です。
- ローラーや刷毛、スプレーなど施工方法が混在する場合、使用量、表面肌などが異なることで仕上りに差が出る場合があります。

- ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように行ってください。ローラー目の方向により上塗りの色や仕上がり異なって見える場合があります。
- 「TMRプライマー」はローラーや刷毛で施工した場合、表面に凹凸が発生します。また、施工間隔によっては、塗り継ぎ部分が目立つことがあるためあらかじめご了承ください。
- シーリング面への施工は極力避けてください。塗膜の汚れや割れの原因となります。
- 屋根材の重なり部分に塗料がたまる原因となりますので、必ず縁切りを行ってください。
- 施工後の塗膜は滑りやすくなりますので、作業は充分注意して行ってください。施工後は、滑雪性がよくなる場合があります。積雪時にまとまった雪が落ちる可能性がありますのでご注意ください。
- 「TMRプライマー」カタログや各種上塗り塗料のカタログ・色見本帳をよくお読みになり、用途・用法を守り正しくご使用ください。ご不明な点がございましたら、最寄りの営業所にお問い合わせください。

■取り扱い上の注意事項

- 火気のあるところでは、絶対に使用しないでください。
- 万一、火災が発生した場合ABC粉末消火器にて消火するなど適切な手段を用いてください。水は使用しないでください。
- 施工中、乾燥中ともに換気を充分に行い、ミストや蒸気を吸い込まないようにしてください。
- 取り扱い中は皮膚に触れないようにし、必要に応じてメガネ、マスク、手袋および前掛けなどの保護具を着用してください。
- 取り扱い作業中、容器からこぼれないよう注意してください。こぼれた場合は直ちに布やウエスで拭き取るか、砂などを散布したのち処理してください。
- 材料の付着した布やウエスなどは自然発火や引火の危険性があるため、廃棄するまで水につけておいてください。
- 容器（取っ手を含む）はつり上げないでください。止むを得ずつり上げる際には、適切なつり具で垂直に持ち上げ、落下に充分注意してください。偏荷重になると取っ手が外れ、落下する危険性があります。
- 取り扱い後は洗顔、手洗いおよびうがいを充分に行ってください。
- 目に入った場合は多量の水で少なくとも5分以上洗い、すみやかに医師の診察を受けてください。
- 誤って口に入った場合は、口を水でよくすすぎ、すみやかに医師の手当てを受けてください。飲み込んだ場合は直ちに医師の診察を受けてください。
- 材料が皮膚に付着した場合は、多量の水で洗い流したのち中性石鹸と水で充分に洗ってください。痛みや外観変化があるときは医師の診察を受けてください。作業着などに付着した場合は、すみやかに着替えを行ってください。
- 皮膚障害、呼吸障害がみられる場合は、医師の診断を受けてください。
- 蒸気やガスを吸い込んで気分が悪くなった場合は空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- 本製品の保管は必ずフタをし、雨露や直射日光の当たらない換気の良い冷暗所に保管してください。現場で材料を保管する場合は、直射日光や雨露が当たらない、風通しの良い涼しい場所で保管してください。
- 水性塗料は5℃以下で保管すると凍結の恐れがあります。一度凍結した塗料は造膜不良により、仕上り不良、物性低下、割れなどの不具合の原因となります。
- 子供の手の届かないところに保管してください。
- 中身を使いきってから廃棄してください。また、廃液・汚泥などは関係法規に基づき、自社で適正に処理するか、産業廃棄物処理業者に委託して処理してください。
- 本製品は環境に配慮した材料を用いていますが、ご使用いただいたすべての人の健康状態を保証するものではありません。
- 本製品は、揮発性の化学物質（有機溶剤など）を含有し、臭気が発生します。あらかじめ元請や施主、近隣住民への説明を行い、了解を得てください。臭気が周辺にある物に付着する場合があります。付着が予想されるものは、施工箇所からできるだけ遠ざけ、屋内に揮発成分が流入しないように養生を行ってください。また、化学物質過敏症やアレルギー体質の方がいる場合には本製品との接触や施工を避けてください。
- 本製品の取り扱い並びに輸送および保管については、労働安全衛生法や消防法、道路運送車両法、船舶安全法、港則法などの各種適用法令を遵守してください。
- 製品をご使用の際は、必ず、警告ラベル、安全データシート（SDS）をご参照ください。

※製品改良のため、仕様などを予告なしに変更することもあります。ご了承ください。【その他、ご不明な点がございましたら、最寄りの営業所へお問い合わせください】

日本特殊塗料株式会社

〒114-8584 東京都北区王子3-23-2 ☎(03)3913-6203 FAX(03)3913-6323

■お問い合わせ先

東京営業所 ☎(03)3913-6203 FAX(03)3913-6323 大阪営業所 ☎(06)6386-8492 FAX(06)6338-3560
 神奈川営業所 ☎(0463)23-2135 FAX(0463)23-3739 中四国営業所 ☎(082)423-8231 FAX(082)423-8256
 中部営業所 ☎(0566)81-8111 FAX(0566)81-8124 九州営業所 ☎(0942)89-5766 FAX(0942)89-5762